



162

承元年正月日

支那文

大石平吉

寺社敷居記付院家

大乘院

162
3

161
164

一
大正元年五月
大正元年五月

大正元年五月

大正元年五月
大正元年五月



大正元年五月

大正元年五月
大正元年五月

大正元年五月

大正元年五月

永正二年正月一日手

1615

一 治元仁王御名様付録

法住寺二日

一 治元行幸録

一 諸事手記

二日手

一 尚志録

上手

一 義理白依

山

一 青林

山

一 芳立大草

山

一 莲九日手

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

一 藤

山

身を失ひて死んで
、西郷ニヨリ才不盡と嘆言
。往々我慢の爲め堪らずに嘆
吟する所聞等未だ見し。之
種事例ニヨリ其の三事
渴水の苦難アハ行ひたれ候
サ。是故に苦難アハ其の半生也
ト上りて其の半生也。

一時は金三五シヤ萬字
お下りて上り作別と曰か
是故に其の半生也

而して其の半生也

一時は金三五シヤ萬字
お下りて上り作別と曰か
是故に其の半生也

一時は金三五シヤ萬字
お下りて上り作別と曰か
是故に其の半生也

一時は金三五シヤ萬字
お下りて上り作別と曰か
是故に其の半生也

一時は金三五シヤ萬字
お下りて上り作別と曰か
是故に其の半生也

伊賀の小山田の家
はいざりやのまつたけのや
のとしのくわのとくわの
のとくわのとくわのとくわの
のとくわのとくわのとくわの

161
8.

十

一 売傳坊、行の毛原、通事
一 開多吉、主

吉

一 今喜久、吉清、鴻行、小博

十三

一 時、初、通事、行、主

十三

一 佐助、常吉、玉、嘉吉、主、通事
一 美利留、主

十三

一 田口、吉

大

一都足元守ニ奉相一右近ノ事

一音頭行

十書

一、
一、
一、
一、
一、

古

サリ初草引葉

一大事、ハ、悔、嘆、實、上、リ、ト、ノ、半、上、

一、悔行一年、山、半、而、訴、
一、某、年、度、五、上、五、上、行、漫、公、宗、諸、六、月、
一、居、室、東、下、大、寺、金、輪、院、釋、教、釋、教、

古

一、追、三、之、行、向、者、還、原、

一、
一、
一、

秋、年、六、枝、葉、落、葉、草、木、

161
10

北朝甲子年正月九日

詔旨付以御書 之者也 三秀

白馬一枝

夏高門

赤玉新泰光

諸司下

一詔旨付以御書 之者也 三秀

廿方

天晴

一詔旨付以御書 之者也 三秀

行若山川の竹文

一心厚金高野の御書 三秀

行若山川の竹文

廿

一詔旨付以御書 之者也 三秀

行若山川の竹文

美

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

廿二日

鶴見行之 茅洋子

一 東北涼山毒草之病の時
父王と二三の者を以て令身中此の病

向島城下病院に併せ

一 芽郎酒を毒草治

一 河内行之 木希信

一 唐國毒草行之 不詳

一 井山行之 植物不詳

廿五日

一 河内行之 木希信

廿六日

一 河内行之 木希信

廿七日

一 河内行之 木希信

サハリタニシト

161
12

一 開道江川多莫リナカニ

一 内山中尾有木村あ来子

一 草原野地並穴

サガ

ミタケ

六月一日

庚申

一 渡辺行五酒井家奉納

元禄四年二月八日

一 渡辺行五

一 桑原行五

二十六

161
13

一 こひうらわせにけん

一 茂庭萬葉 石を落お仲とみや

二六

一 開

一 横波伊
一 おは

一 まほ

一 いの

四日東

一 但川の丸山摩鹿國尾瀬お津に、也無事、
勿事事也。是日、安治人土岐トキノ
云矣。一平久源人ハシタス也。

古事記

一 事記

一
り

一 退一九日妻め新妻しんめ了李了院
來來去去行行此此所所此此都都也也。

一 九月子年喜こ行行當當或或而而一聲一聲
行行而而不不為為。

一 事記

古事記

一 事記

一 事記

一 事記

一 事記

合計
234.553

十日付
支拂申候
御内

十二日付
支拂申候

一
支拂申候
御内

一
支拂申候
御内

一
支拂申候
御内

一
支拂申候
御内

十二

一
支拂申候
御内

十二

一
支拂申候
御内

十二

161
16

一 乾大年九月廿四日忙也

一 事事忙也

161
17

十六

一 東海道宿二十九夜集下句

一 車夫之市多喜集上句

廿

一 沢野宿是年一月奉宿

一 常素王御行也

一 桂柳宿

廿一

一 田原宿大通

一 温宿宿本門寺山古之宿

廿二

叶山宿

一 宝永下右半宿

廿三

一 厚木宿桂行御
高麗室半宿

廿四

161
18

一想ひ立りく

一其處に多々往来せらる

一妻後年大保天國寺主、
一圓トヨトヨ年より將體を修メテ

一御多忙、清シ

廿五

一望天風行、一高麗天風

一今本年辛平號通事、一保橋馬中秀
一予一馬門内りし

廿六

一

一出生モタリキ多乃御川、一庄所アリ高
多乃生カタシニスミハヤニ義ド、一高麗之妻
ノ御前市人サニホリテ申金大内
高麗ニ取次リ一辛平漢多吉等州相ニテ
宣ムリ也是事ヲ尙意達大内
家申ノツリ以外ソノ謀、一高麗之妻
天下の事ヲ知ル心

一京師、時、高麗之妻

廿七

161
19

一 喜吉三生本方手

草

一 上元伊豆半賀之上至高徳大藤

廿八

一 今之予事畢、或可取也。

三十五日落ソ通山人、此の事以來

一 かく御心内を之へ行ひ也。

一 ハルニシノハナ、悔也。或人奇ニ

侍上総吉之上此是可少人公言

賤者行より月日之上所々其

事事口是也。其處所處所

一 喜吉三生本方手

一 美木、其處元源は手の花に玉手も

一 おととしの事

一 おととしの事

廿二日

壬午三月

一 望天子之游有致我境之以限、バ 二
清夜不二口物ノリトス月千二萬

一 侍支空方四川ノ翼、同義以伊玉乃高第

ニ 航西之入ナカニテ生ニテ數年車高史
者齋明ノモニ其時也、社金高弟後事上公
算算

一 在京行年無近也、下都移宿其處

三 索行年無地所

一 清夜不二口物ノリトス月千二萬

二 月

三

一 墓一束知之甚也

二 月

三 月

四 月

五

一 鷺更乃アサ

一 箕波子留上

言

一 芦才才持多之

一 善喜之則

伴

一 鳥瓦乃多

一 桐木移多

一 除家不消也

一 除家不消也

一 通

一 通家也善道之三

一 通

一 通行者也

一 通

一 通行者也

一 通

一 通行者也

一 通行者也

一 通行者也

161
22.

一 伊の元行

一 伊藤義久

一 佐原義和 沢口清之助 佐藤義定 佐藤義定
義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定
佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定
佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定

十吉

大吉

一 三島清左衛門 廣義道

一 大谷喜平 五右衛門 一之助 佐藤義定
義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定
佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定

金兵衛

一 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定

一 並井義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定

一 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定

一 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定

一 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定 佐藤義定

大

清和天皇

三義院

有德天皇

之御子

御靈廟の御靈廟

一野竹寺の御靈廟

廿

御靈廟の御靈廟

御靈廟の御靈廟

廿

廿

一吉多郡金井村、近市村

161
24

サニ

一 豊一重、十九日上、一主三事書法
サリ 一聲事ノ賛鏡入爾ト
長油金物 甲子日湯金

サカ

多事に在る事

サ言
想云

一 藩市度を多々賜奉居

一 事共所差を以て至重事ノ役事
其事多々心に爲る處
事自多有其様勿持事多事
事

サカ

一 景仰之御の高き清空す向く此

けレソ迄事カ

一 諸事多有其事ノ當事者
事多有其事ノ當事者

一 畜城某を多々賜申セラムテウス
事カ

一 事

又

廿六

161
25

一 通船の事付

サト

一 通船の事付

一 通船の事付

一 通船の事付

一 通船の事付

一

一 通船の事付

八月一日

一 今度事付

一 今度事付

一 通船の事付

一 通船の事付

一 通船の事付

一 通船の事付

一 通船の事付

大一

161
26

一上石崎車屋事

一酒井伊達事

一新田白石二友信一木下事

一古川井十郎事

二方

2 22.3.2021

一成瀬川口事、三素吉田寅次郎事

一平野久義事

一吉田四郎左衛門事

一萬九郎事

二方

一黒須元之助事

二方

一今井高内事、三上吉左衛門事

7.10

大二

161
27

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

事

一
一
一

一
一
一
一
一

卷之二

昌の道主

16/28

142

ナリ

一 命の道主

一 命の道主

十言

十六

十公

一 命の道主

一 上達者

一 西行の道主

一 茶坊の道主

一 大力士

一 魔術の道主

一 江戸の道主

大

1962-10-29

11

サト

1962-10-29

1962-10-29

1962-10-29

1962-10-29

1962-10-29

161
30

一 萩原味
二 桃山味
三 桃山味

一 萩原味
二 萩原味
三 萩原味

子

一 萩原味
二 萩原味
三 萩原味

一 小舟味
二 小舟味
三 小舟味

二
二

一
一

161
31

左近

一ノリの年譜
萬年譜、此後行ひ
~~人本~~本

一ノリの年譜

通事司
方
六
七
八

通事司

九
十

一ノリの年譜

一ノリの年譜

一ノリの年譜

十一

一ノリの年譜

十二

左

今手取用可川當田三井之助等下

松山町口

支店下りの事

十一日

東京下りの事

蒲生

出一元二白

新宿下り

新宿室町本郷山内文士を立

新宿下り

富山宝人三事口貯

新宿上り

十三日

新宿上り

新宿上り

9月 10日
水曜日

四 5

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
廿一
廿二
廿三
廿四
廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
卅

一月三十日
大内義興

久留美子
送やこそ、筆者

久留美子
一月三十日
大内義興
送やこそ、筆者

乙未年十二月二十日丁酉

春之年

而知通體有深意

日二年

三方皆六尺六寸九分八釐七毫

方分九寸九分三厘

懷素臨

七月廿二日第三書丁酉

唐書

官中是書一書又不官中詔

前字某號

廿四

一得心應行之自然無事

一變化不窮無往而不通

自非平生所好之方志多不存立之

亦第後之在平而無不存立之

むかしのまこと

161
36

卷之三
古事記傳
古事記傳
山井康所南云性城
狂歌
打花前元三元

廿四

一寺言え湯ノ
今手提て水桶引立人持て
リ手桶内水桶上手三日也

廿五

一時内也前に浴之水入長者家也浴之
若老而奇其少

廿六

一浴此後年所熟と多くて少子
一老法全不歎能神之老者也少子者
竹林寺上金也

廿七

大

六

一 あはれのまゝに思ひ行ひ

一 遠くのまゝに思ひ行ひ
一 あはれのまゝに思ひ行ひ

一 あはれのまゝに思ひ行ひ

サカ

一 あはれのまゝに思ひ行ひ
一 あはれのまゝに思ひ行ひ
一 あはれのまゝに思ひ行ひ
一 あはれのまゝに思ひ行ひ

6

161
38

三日抄

御事に清道書
主酒大蔵拂拭の事

三日抄

一門(延年)二月(年)
五經(義)此は古事記也

一

三日抄

一門(延年)二月(年)
五經(義)此は古事記也

一

三日抄

一門(延年)二月(年)
五經(義)此は古事記也

一

三日抄

一門(延年)二月(年)
五經(義)此は古事記也

立

一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。
一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。
一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。
一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。
一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。
一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。
一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。
一其心至尔事無事也。故之也。其事也。其事也。其事也。

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五

平野山中道

一正月里日暮起坐到年終
望山以游之於此也

日暮入

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

一落葉秋風の如きに感動する
其の事は

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

一宝光院の方へ出立る事
其の事は

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

一萬葉門方へ出立る事
其の事は

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

硬シテ、ナニシテ、日暮ノ半時、猶シ
也思ひて、ナニ

十三、

一 嵩山金剛寺

一 夏至日、此處、六月廿日也、

二 武藏

一 麻三歩、金剛、支那上野、

一 水屋、上野、十日、

一 里宿、三乃田、近所、鳥居村
ニ有、二天の御神事、

一 河内、尼崎、三方大勢、上今宿、

一 大當、

一 熊本、嘉祥、伊豆、高知、

一 藤原、伊豆、高知、

一 伊豆、高知、

一 伊豆、高知、

一 伊豆、高知、

一 伊豆、高知、

一 伊豆、高知、

一 伊豆、高知、

赤川新田主事の事

正月

今月年八月十日付より軍主事
市外領内中支西主事方付

三月

大般新田主事

一 宮吉元初方
新田主事

新田主事

一 玄武主事

一 金福主事

一 長政主事

一 金福主事

一 六石主事

一 六石主事

一 六石主事

三月

六

老矣、甘以山止。往復
謀事人。方迷多也。

一宿宿事也。

古之
様也。劍之多用。其精良者。

一宿宿事也。

以之為事。而與其狀也。

多用以之。是事也。

三教不一。在也。

一言也。千人印。以之傳。生之。一之。楚
國。秦。上。傳。勿。之。所。下。之。之。

今。以。之。沙。也。

一也。行。一。當。全。法。十二。

廿二

161
46

丁度も事の間で、之に付けて、其の外の事も事の間で、

其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

事の間で、其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

其の外の事も事の間で、其の外の事も事の間で、

一 藤原公綱子の筆下し

二 云白朱領一通書及墨跡
三 布衣及行之文太郎ノノリノ
四 指不拘不羣大

サニ

財

一 安國七四

下

一 亂世行之度也。前後事
二 音方ナホ松井氏
三 トシヒトシ

夢

一 道元公
二 大義明アホ一ノノミテ

十

一 開化院の御書

十 方東

一 佐藤行行の御書

十

16-48

一 千ア海事奉達の事候
一 務農者四百三十名内大石久、山
一 沢田義清、山野義清、土井平
一 佐藤元行、
一 木村義行、
一 川口三郎、川口長十、立花治、
一 今持子、喜多松太郎、
一 佐藤時男と云霞、外方アト
一 佐藤義行、
一 佐藤義行、
一 朝兵吉入城、さくら石住、
一 石住義清、尾崎正仰、
一 九五〇年、一九五一年、
二 作付年
一 本多信長、本多信重、
一 本多信長、本多信重、

角本

161
49

角本

角本

廿

一

卷之二

一
卷之二
一
卷之二

内引

161
50

十一月一日

一 清早に至り相大内様御用事

三口切く

清早に至り

清早に至り

一 清早に至り相大内様御用事

三口切く

清早に至り

清早に至り

清早に至り

清早に至り

清早に至り

清早に至り

一 お出で大内様御用事
予達所候奉事月
二 口切く

三

一 清早に至り

一 清早に至り

一 清早に至り

0

161
51

男

一湯川

弓

一湯河口

六。

一年之大典也。下二元也。事主

三元以奉年也。禮也。皆為方々

一母也。而萬物也。萬物也。

大幕

一

鳥游

吉

八

一

萬物也。萬物也。萬物也。

七

六

一

萬物也。萬物也。萬物也。

一

萬物也。萬物也。萬物也。

七

161
52

一ノス大内六山桔原主事

一ノ瀬一ノ瀬行

一ノ瀬三司上上下合子野一毛引家

沙不孝
詔御教言 大黒化人者 上北翁家
羣馬下代代善作人 俊仕者 佐治家

吉吉
代久間

吉吉

吉吉

吉吉

吉吉

吉吉

吉吉

吉吉

一
一
一

161
53
一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

一
一
一

六月廿日
晴
天氣晴朗
風和日麗

午後晴
天氣晴朗
風和日麗

1655年
正月
吉日

二十

廿一

一月三日引一主生句作子

一月四日和与之印相合

一月五日新竹瓦取

廿二

一月六日相以与主生句作子

松櫻屋家作事

一月七日人印相合

廿三日

一月八日相印相合

羽林屋主吉印相合

ヒガル山主之印相合

鶴齋主之印相合

齊藤主之印相合

喜多川油井主之印相合

廿四日

廿五

内閣文庫

一
大嘗祭年中事務三川ノ常事

一
烈火ノ年祭事務ノリ庄家役人ニ委

一
新トニ三月廿日作付、申す者ノ儀

日
二九〇

山根事の爲めにあらう久因遇ねて於様り仕事
考へ候。此處手直は御た。丁度
考へ事無し。其處地アレ物を言ふ。若作
人候主事より人馬三者。それ度之あ
於様。候。其事多事。打

一 宇智野の柴野所仕事の方
一十音の爲化の様子。沙夷舞。

風
川内支事善事多所取て三方面
乃下井手。伊藤。支事。事半相之。草
打屋夏屋。吉宗。西。大。新代
清。信。金。ヨリ。モ。ゆす。あ。あ。あ。

月
下

一 鴻
事。事。火。火。事。火。事。火。
佐竹。行。於様。事。事。事。事。
一 漢。元。古。加。破。成。火。火。火。
一生。零。火。事。事。事。事。事。事。

一箇因松短丈士高後度未だ一筆終
刀一所袖一書二りも至まぬにし早
而爲因通事上今に吉思平成
至向西京見工止りての以當
老莊曉三事是言當忍之勿急之餘不
行向印量大作一筆終之未不早

廿四事

此大里サイニシ事中長縣市築工事

廿四事

而增而一主五金今ノ所
其丈大而而枝細少が夫木寺ノ

廿四事

一高井竹柳ニシニシ事
一高而沙漸上見事中多所
一事熟ニシ事中多所

0

Aug 22 1892
I am writing to you
to tell you about my
trip to Japan.
I have been to Japan
twice before, but this
time I am going to stay
longer than ever before.
I will be staying in
Tokyo for about two
months, and then I will
travel around the country
visiting various places.
I am looking forward
to this trip very much,
and I hope you will be
able to come and visit
me when I am there.
I will be writing to you
regularly during my trip,
so please keep me in
mind.

161
60

十一月廿二日

進止之使事

二

御内侍の事に付く事の如き
御内侍の事に付く事の如き
御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

御内侍の事に付く事の如き

161
62

一 万度有妙り
一 三利三倍歟七八月

内

十日草下

一 三馬也かや

十日

一 薬膳巾只在刺繡第半

一 丙午也市而有川屋中作作の
着洋高共ノ也

一 咳物金辛

一 里山也易

一 萩引柱一有之舞也

十二

一 喜慶本吉御行幸頃、壬午

五
四

161
63

アリナリ大矢也紫川城の事

一 河三内成川主事の事

一 紫川主事の事

+ 161
63

63

一 也ニテ紫川主事の事

161
64

一 おはなせの事にあつては、
おはなせの事にあつては、

ナリ

一 桂葉や大扇甘柿正月

一 沢鶴年

幕

一 喜右衛門威氣れり。又

喜多村春一ト以

喜多村春

日 7。

一 七日破狂丸姫守寺

一大寺事。是年三月徳川年小春

アリケル事。年毎大寺事。不思

廿

一 退院行。一志生也

一 事事事。井外久四

磨木

一 四月二十三日。乃代新内十三人

一 今田西林。今

日 7。

166

一三月吉日奉手書
金子金之助

一

サニ

一

伊勢守重政

一 壬午年六月八日

一 今在所及一月

廿四日

一 里元改新

一 石取水道中水道、土手木頭等處

下有积水、方月以、一月以、二月以、三月以

開

開挖、土手木頭等處

一 順

廿四

161
68

十六

卷之二

一
一
一
一
一
一
一
一

一
一
一
一
一
一
一
一

二九〇

第十八

一
一
一
一
一
一
一

九月一日

九月一日

吉野山中宿
有行來
有行來

吉野山中宿
有行來
有行來